

# 国労の闘う姿勢に共感 相次いで国労に加入!



## 国労西日本

国労西日本本部

NO. 379

発行責任者 植田 重信  
編集責任者 大北 真也

国労西日本HP



国労西日本



TUNAG

TUNAGを利用中  
組合員の皆さん登録しよう  
登録は西日本本部または地方本部へ

### JR採用者の加入で元気に!

意志をしっかかりと示そう  
国労は全国に仲間がいる  
さあ、あなたも加入しよう

国労西日本本部で  
は、この間、加入が相  
次いでいます。毎年  
組織拡大があり、仲  
間を歓迎してくる  
元気にして、  
動きをすすめて  
います。8月に  
開催した  
第38回西  
日本本部  
大会以降  
5名の拡大がありま  
した。JR採用者の  
加入が続き、  
加入者からは「皆  
さんの働きかけのお  
陰で、待遇面で色々  
良くして頂きました。  
私も微力ながら、そ  
の一員として努めま  
すのでよろしくお願  
いします」



①「真摯に職場問  
題の改善に取り組ん  
でいる姿に感銘を受  
けました」

②「大好きな草  
津列車区  
の雰囲気  
を壊すよ  
うな施策  
に反対す  
る。みん  
なの不満  
を届ける  
べく僕も  
最後まで  
闘いたい」

③「自分には素直な  
気持ちで組合を選ん  
だ。わからない事も  
ありますが一緒に頑  
張っていきたくです」  
④「入社して20年  
間、いろいろ見て体  
験し、国労役員諸氏  
の労働組合に対する  
真摯さ、組合員への  
フラットさ、ホワイ  
トさに共感していま  
した。会社や職場を  
良くしていくことは  
私も追求していくと  
ころです。今後とも  
頑張りたいと思いま  
す」とそれぞれが決  
意を述べています。  
今こそ、声をあげ  
る時です! 皆さん、  
国労に加入しよう  
ではありませんか!

### 第38回大会以降国労加入者

- |   |       |       |     |
|---|-------|-------|-----|
| ① | 9月1日  | JR貨物  | 30歳 |
| ② | 2月1日  | JR西日本 | 40歳 |
| ③ | 2月8日  | JR貨物  | 35歳 |
| ④ | 3月1日  | JR西日本 | 21歳 |
| ⑤ | 3月10日 | JR貨物  | 47歳 |



# 低額回答に抗議！ 物価高に負けない賃上げを！

西日本会社・貨物会社に抗議を行なった！

全組合員の声をぶつける！



3月13日、JR西日本・西日本貨物会社前に、おいて、

「春闘勝利！安全・安心の鉄道と社会をつくろう」を国労西日本本部総行動を開催しました。

大和執行副委員長の司会で始まり、代表として植田執行委員長の挨拶、国労本部より岩元書記長の挨拶を受け、伊野賃金対策部長より西日本会社の交渉経過報告、関西貨物協議会より恵阪事務局長が決意表明を行いました。



各地方本部から決意表明

各地方本部の決意表明では、広島地方本部より



中野書記長、岡山地方本部より勝田執行副委員長、米子地方本部より藤野執行委員長

近畿地方本部より山本執行委員長の挨拶、その間、春闘要求力ドの作成や宣伝行動、職場オルグや回答に対する抗議などの報告が行なわれました。大北書記長が行動提起を行ない、最後に波見執行委員がシユプロヒを

今春闘も職場闘争から全組合員運動を展開していただき、ありがとうございます。職場環境作り、働きやすい職場改善等引き



引き続き奮闘していき

2025年3月11日

西日本旅客鉄道株式会社  
代表取締役社長 長谷川 一明 殿

国鉄労働組合西日本本部  
執行委員長 植田 重信

## 西日本会社の「期末手当5.3箇月」「ベースアップ一律12.200円」の回答に対する抗議

我々国労西日本本部は、安全・安心の職場と鉄道輸送を確立するために、職場で日夜懸命に奮闘している組合員・社員とその家族、グループ会社で働くすべての社員の労苦に報いるよう、期末手当6.0箇月、ベースアップ17,000円を掲げ、今日まで交渉を行なってきた。

西日本会社は、3月11日に ① 基準昇給額表に基づき実施 ② ベースアップ一律12,200円、契約社員は時間額に75円加算 ③ 金沢・旧福知山・旧米子エリアのエリア手当引き上げ ④ その他手当等の改善の回答として、① 職務手当の見直し② 期末手当成績給改善 ③ 通勤手当の見直し ④ リファラル採用一時金の新設 ⑤ プリージャーの導入 ⑥ 共済会における同居家族へのインフルエンザ予防接種費用補助の給付新設 ⑦ 奨学金変換支援制度の新設 ⑧ 社員持株会奨励金引上げ ⑨ 資格取得一時金制度の対象資格追加について、回答を行なった。

この間、コロナ禍で度重なる低額回答等により社員とその家族は生活苦で先行きも不安な状態を強いられてきた。その状況から離職者も増えていたのが実態であり、改善を求めて交渉に挑んでいるのにも関わらず、交渉の中でも「原資に限りがある」「一度退職をしている」という主張を繰り返す姿勢に対しては到底納得のいくものではなく抗議するものである。

西日本会社は、あらゆる大規模開発や万博などに投資を行ない、さらには内部留保として溜め込む姿勢を繰り返している。物価高騰に見合う賃上げで社員とその家族への生活改善を行なうことが企業としての社会的責務である。経営状況も回復しており大幅な改善が求められていたが、西日本会社は考慮したものは言えない低額回答等を行なった。

西日本会社は離職防止には賃上げが一番の特効薬であると認識しているにも関わらず、このような低額回答を行なった。この回答は、労働者の労苦に背を向けるものであり、我々は怒りを持って抗議する。

今日の経営を支えてきたのは、安全・安心な鉄道輸送をめざし、日々、奮闘している組合員・社員がいて成り立っている。JR西日本会社の体力と大企業としての社会的責務を鑑みれば、到底納得のいくものではなく、低額回答に対し満身の怒りをもって断固抗議するものである。

以上

2025年3月13日

日本貨物鉄道株式会社  
代表取締役社長 犬飼 新 殿

国鉄労働組合西日本本部  
執行委員長 植田 重信

## 2025年度新賃金に対する抗議

「2025年4月1日以降の賃金引き上げに関する申し入れ」（国労開申第9号）に対して、3月13日、貨物会社が示した、「ベース2,000円」の回答に強く抗議する。

貨物会社の直近3年間は赤字決算が続いていたが、今年度は大幅に改善したものの、単体の赤字は確実な状況であり連結での黒字もギリギリであるとしている。大雨や大雪の自然災害や輪軸不正による減収がありながらも、2024年問題における輸送手段のシフトや運賃改定における効果、さらには昼夜を問わず懸命に貨物会社の信頼の回復、業績の回復に向けた社員の努力により、昨年より業績は大きく回復しているのは事実である。会社は離職防止や採用数獲得についても課題と認識している中で、その最も大きな理由が低賃金であることから目を背けず、重く受け止めるべきである。「中期経営計画2026」内では、指針に「社員満足度の視点」として、一鉄道貨物で働く誇りと達成感を大切にすることを掲げているが、満足度の一番の価値である賃金を抑制する施策を続けているのはモチベーションが低下する一方である。国労が実施した生活実態アンケート調査では、毎月の赤字額の平均は36,000円であり、47%の社員が現状の生活に満足しておらず、働き甲斐、生活改善を求めて貨物会社を去る決断をする理由としては十分である。国労が要求している17,000円は賃上げの最低ラインであることは918筆の社員からの署名をもって明らかで、企業の責任として社員の生活改善を早急に実施すべきであり、その原資としては黒字基調の時に人件費を抑制して積み上げてきた内部留保を還元すべきである。

社員は相次ぐ自然災害や新型コロナウイルス蔓延時、輪軸問題により逆境となる中でも貨物列車の安全な運行を守り、信頼回復に向け社員一丸となるべき状況である中、中期経営計画に掲げる「国内唯一の貨物鉄道グループで仕事をすることに誇りを持って賃金制度、労働条件とするべく2025年度新賃金について再度責任を持った回答をする事を要請する。

以上